

“台風に備えて”

“伊勢湾台風から60年 “災害の教訓を生かす”

「防災だより N0.1」

発行月：令和元年8月
発行者：大矢知地区自主防災協議会

自分で行う災害への備え

台風は、毎年大きな災害をもたらします。警報などの防災気象情報を利用して、被害を未然に防いだり、軽減することが可能です。テレビやラジオなどの気象情報に十分注意して下さい。

○ 家の外の備え

- 大雨が降る前、風が強くなる前に行く。
- 窓や雨戸はしっかりとカギをかける。
- 風で飛ばされそうな物は、飛ばされないようにする。



○ 家の中の備え

停電に備えて、懐中電灯、衣類、貴重品食料、水などを準備する。

○ 避難場所の確認

学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認する。

早めの避難行動

台風が接近してくる時は、気象庁などから時間を追って段階的に発表される「注意報」や「警報」などの防災気象情報を有効に活用し、「早め早めの防災行動」をとるようにする。

- 危険を感じたり、避難の情報があったら、すばやく「避難」する。
- 持ち物は必要なもの(飲料水、食料、常用薬など)を最小限にし、リュックサックに入れて避難する。



風の強さによる影響(平均風速)



※ 浸水時に避難する場合は、棒を持ち地面をさぐりながら避難する。

【台風の通り過ぎるのを待つ】

台風接近時に自宅にいる場合は、外出を控えて下さい。
屋根や窓の補修のため、外へ出るのも危険です。

【伊勢湾台風災害の概説】

1959(昭和34)年9月20日マーシャル群島で発生した熱帯低気圧は、21日21時に台風第15号となった。その後、超大型の猛烈な台風に発達し北上を続け、26日18時過ぎに和歌山県潮岬に上陸した。紀伊半島をほぼ縦断し、愛知県には26日21時頃最も接近し、岐阜県西部から富山県を通り日本海へ抜けた。台風は超大型の勢力を保ち、東海地方の西を北上したため、特に伊勢湾周辺では南寄り40m/s以上の暴風となり、記録的な高潮(名古屋港で21時35分に3.89m)が起こった。

愛知県では、名古屋市や弥富町、知多半島で激しい暴風雨の下、高潮により短時間のうちに大規模な浸水が起こり、死者・行方不明者が3,300名以上に達する大きな被害となった。また、三重県では桑名市などで同様に高潮の被害を受け、死者・行方不明者が1,200名以上となった。

出典:気象災害の記録 伊勢湾台風(気象庁HPより)

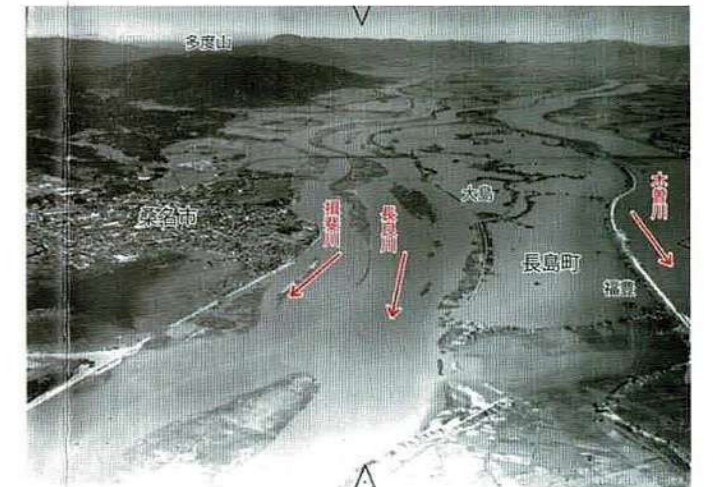
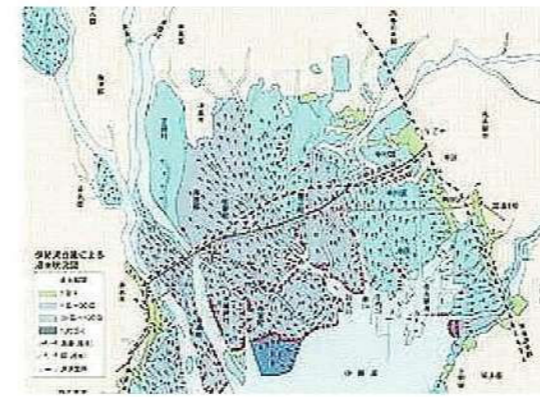
大きな災害をもたらした一つの要因

その他の要因の一つとして、気象警報の運用もあげられている。
警報や情報が十分活用できなかった原因として、次のような問題点を指摘している。

1. 今まで台風による大きな災害を受けた経験がなかったこと。
2. 警報が発表されてから前線による雨が止み、雲が切れて12時頃一時薄日が差したため、警報に盛った大限の表現が公衆にそのまま受け取られなかったのではないかと指摘している。
3. 強風により18時頃停電したため、テレビ・ラジオによる情報や解説を全く聞くことができなかった所が多かった。

出典:報告書(1959伊勢湾台風):防災情報のページ 内閣府HPより

高潮による浸水状況



出典:建設省中部地方建設局木曾川下流工事事務所「伊勢湾台風から40年 人とのかわり」1999年9月より

【四日市市伊勢湾台風殉難慰霊碑 (設置場所:富田一色町海浜緑地公園)】



【被害状況】

四日市市では、富田・富洲原地区を中心に、死者115人、家屋の全半壊合わせて3,695戸、床上浸水15,125戸、床下浸水3,064戸という大被害が出ました。

【資料:三重県伊勢湾台風災害誌より】